

第2回来藩

Table with columns: 年 (Year), 月日 (Month/Day), 事項 (Items), 出典 (Sources). Contains detailed records of the 2nd return to the藩 (1694-1696).

享保年間の幕府取り調べ

Table with columns: 享保 (Year), 月日 (Month/Day), 事項 (Items), 出典 (Sources). Contains records of the 幕府 (shogunate) investigations during the 享保 (Kyoho) period.

●資料紹介

<鳥取藩政資料>

旧鳥取藩(因幡・伯耆の2国:現在のほぼ鳥取県域に相当)の藩主池田家に伝わり、昭和44年に鳥取県に寄贈された膨大な資料群。寛永9年(1632)の初代光仲から明治初年(1868)までの約240年にわたって、藩の各部署で作成された記録をはじめ、鳥取藩政全般にわたる資料。資料総数は約15,000点。平成6~8年度で『鳥取藩政資料目録』を刊行。

<因府年表>

藩士岡嶋正義が天保13年(1842)ごろに編纂した鳥取藩の年表。5巻...貞享3年(1686)~元禄6年(1693) 6巻...元禄7年(1694)~元禄13年(1700)

鳥取藩政資料からみた竹島問題(安龍福の来藩の記録)

委員(鳥取県立博物館長)谷口博繁

元禄5年(1692)の遭遇

Table with columns: 年 (Year), 月日 (Month/Day), 事項 (Items), 出典 (Sources). Contains records of the encounter in Genroku 5 (1692).

第1回来藩

Table with columns: 年 (Year), 月日 (Month/Day), 事項 (Items), 出典 (Sources). Contains detailed records of the 1st return to the藩 (1693).

同六年七月朔日 長崎奉行所ニテ上書

朝鮮人式人申由

一 朝鮮国慶尚道之内東萊之郡釜山浦之安ヨクホキ、蔚山之朴トヲヒ与申者ニ而御座候、我々儀、蔚山与申所より竹嶋与申所江嶋、若布持ニ三月十一日ニ出帆仕、同廿五日ニ寧海与申所ニ参着仕、其所を同廿七日辰之刻ニ出帆仕、酉之刻竹嶋江参着仕、右之嶋、若布持逗留仕居申候所ニ日本人四月十七日ニ我々罷在候所ニ罷出、則着物杯入置申候ひら包をおさめ、我々兩人彼方之船ニ乗せ即刻午之刻ニ出帆仕、鳥取江五月朔日未刻罷着申候、常ニ竹嶋之儀嶋、若布大分御座候段承及申候ニ付、船嶋艘二十人に乘組、寧海与申所迄罷越候処、右拾人之内屯人ハ相煩申ニ付寧海江残置、九人乘組右之竹嶋江罷越申候、拾人之内九人ハ蔚山之者、同屯人ハ釜山浦之者ニ而御座候御事

一 我々乘船類船共二三艘之内一艘ハ全羅道之船与承及申候、則人数十七人乘、同屯艘者十五人乘、慶尚道之内加徳与申所之者与承及申候、我々儀日本之様ニとらえ被越候付、彼者共儀即刻朝鮮江罷帰候共、何方ニ参候共前後之儀不存奉候御事

一 此度我々共嶋取ニ参候嶋之儀、常ニ朝鮮国にてハムルグセム与申候、日本之内竹嶋与申所之由ハ此度承申候御事

一 今度爰許迄罷越候内、警固之衆より御馳走ニ而罷越候、布木綿衣類等も被下申請候、委細因幡ニ而之口書ニ申上候通相違無御座候御事

一 我々共常ニ祝着を念し申候御事

一 朴トヲヒ歳三拾四、安ヨクホキ歳四拾ニ罷成候、然所ニ因幡ニ而歳四拾三与申上候由ニ御座候得共、是又言葉晚与通シ不申候故相違も可有御座哉与奉存候御事

右之通竹嶋江参候朝鮮人申上候付、書付差上申候 以上

元禄六年癸酉七月朔日

末次七郎兵衛 印

通詞 大浦格兵衛 印

加勢藤五郎 印

宋對馬守内

濱田源兵衛 印

- 一 鏡 壹面
 - 一 湯かた 壹
 - 一 風呂敷 貳
 - 一 唐笠 壹本
 - 一 布手拭 三ツ
 - 一 煙器 貳本
 - 一 皮多葉粉入 貳
 - 一 布帶 壹筋
 - 一 木綿布子 壹
 - 一 布足袋 貳足
 - 一 かや 壹張
- 右者從伯耆守様朝鮮人ニ被下之候分

- 一 木綿袴 五
 - 一 布帷子 四
 - 一 まんきん 貳
 - 一 木綿単物上斗 壹
 - 一 木綿綿入下斗 壹
 - 一 打帶 貳筋
 - 一 木綿帶 貳筋
 - 一 笠 貳
 - 一 木綿足袋 壹足
 - 一 さすか 壹本
 - 一 虎のきはか之指 壹
 - 一 船手形 三枚
 - 一 木札 貳枚
- 右者朝鮮人持渡候分何茂無違請取申候 以上

宋對馬守内

濱田源兵衛 印

此書付ハ私書人之名ニ而差上申候、是も江戸表江被差上候由源兵衛方より申越

○ 同六年九月四日大目付門野九郎左衛門を以朝鮮人間情被仰付也

朝鮮人口書

- 一 我々兩人之内老人者釜山浦之者アンヨグト申候、老人ハウルサン之者バクトラビト申者ニ而御座候、我々一艘二十人乗組候處、内老人相煩申ニ付寧海^{ソウカイ}与申所ニ残置九人乗竹嶋ニ罷渡候

船頭 キムヨチヤキ

キンバタイ

キンデントイ

ウルサン之者

セコチ

イハニ

キムトグソイ

チャグチャチュン

- 一 右老艘ニ乗組ウルサンより仕出、三月十一日乗組仕、同十五日ニウルサン出船仕、同日ウルサン之内ブイカイ与申所ニ罷着、同廿五日ブルカイ出帆仕、慶尚道之内エンバイ与申所ニ罷着、同廿七日辰之刻エンハイ出帆仕、同日酉刻竹嶋江罷着申候、エンハイ与竹嶋之間五十里程も可有之歟与覚申候、朝鮮江原道より東ニ当り申候、鳴之程朝鮮牧之嶋より少大ニ見へ申候、山之様子險阻ニシテ高く御座候

- 一 彼嶋ニ鳥類獸類魚類ニ至迄別而いなもの無御座候、祢^ニ大分居申候

- 一 彼嶋に古キ小屋をこほち候道具御座候、如何様日本人之住跡之様ニ被存候

- 一 彼嶋之名を朝鮮ニ而ムルグセム与申候

- 一 彼嶋之儀日本ニ而御座候も朝鮮之地ニ而御座候も一円存不申候、日本ニ罷渡候而日本之地ニ而御座候由初而承申候

- 一 類船之儀老艘者全羅道之内シュンデン与申所之船ニ而人数十七人乗組、同老艘ハ慶尚道之内カトク与申所之船人数十六人乗組、式艘共ニ四月五日彼嶋ニ参候、式艘之人数船頭を初為存者老人も無御座候

- 一 我々船ニ食飯之用ニ米拾俵塩三俵乗せ参候、其外荷物無御座候、尤類船之様子も我々乗船同前ニ而御座候

- 一 我々彼嶋ニ罷渡候儀、若布大分有之由承存持ニ罷越候、類船とても其通御座候、別而商売之心懸ニ而曾而無御座候

- 一 彼嶋ニ而日本人与商売曾而不仕候、類船之儀者如何様ニ御座候も不存候

- 一 我々之儀今度初而彼嶋ニ罷渡候、乗組之内キンバタイ与申者、去年彼嶋江一度持ニ罷渡、様子為存者ニ御座候故我々茂罷渡候

- 一 カトク之船へ兩人彼嶋江前以老度渡り候者有之由承及候

- 一 我々彼嶋ニ罷渡候儀、別而忍ひ申儀曾而無御座候、去年もウルサン之者廿人程罷渡候、尤公儀より之差函与申儀も無之候、自分之持ニ罷渡候

- 一 彼嶋ニ朝鮮国より渡り候儀、古より渡来候哉、近年より渡候哉、左様之様子者曾而存不申候

- 一 我々彼嶋ニ罷在候内小屋を掛、小屋之番ニハクトラヒ与申者残置候処ニ四月十七日ニ日本船一艘参り、天間ニ七八人乗候而右之小屋ニ参ハクトラヒを捕、天間へ乗せ、尤小屋ニ置候平包老取乗せ罷出候付、アンヨグ其所ニ参断申、ハクトラヒを陸江揚可申与存、天間ニ乗候へハ、早速船を出し兩人共ニ本船ニ乗せ、早速出船仕、隠岐国ニ同廿二日ニ罷着申候、其間者洋中ニ罷在候

- 一 同廿八日ニ隠岐国出船仕、五月朔日ニ取鳥罷着、三十四日逗留仕、取鳥^{ウツトリ}発足仕、同日長崎表江着仕候

- 一 取鳥^{ウツトリ}発足仕、長崎表江廿六日振ニ罷着申候、其間所々ニ而御馳走被仰付候、膳部一汁七八菜程宛ニ而御座候、兩人共ニ乗物ニ而長崎迄罷通候以上

九月四日

元禄八年

合上下六百四拾八人程

對州之商人

細工人五人
大工 四人
水主百拾人程
町人貳拾人程

同年十二月廿四日松平伯耆守家来召寄、伯州より竹嶋江漁民相越年来漁採仕候由相聞候付、書付を以尋候覚

因州伯州江附候竹嶋者、いつの頃より兩國江附屬候哉、先祖領地被下候以前より之儀候哉、但其以後より之儀候哉之事

竹嶋者大方何程はかりの嶋候哉、人居無之候哉之事

竹嶋者漁採二人參候儀何頃より相越候哉、年々參候哉、又者折節參候哉、如何様之獵仕候哉、舟数も多參候哉之事

三四年以前朝鮮人參致獵候、其砌、人質二人被捕候、其以前も折々ハ參候哉、終不參右之節兩年打續參候哉之事

一兩年者不相越候哉之事

先年參候時分者、船数何程斗、人も何程參候哉之事

竹嶋之外兩國江附屬之嶋有之候哉、是又漁採二兩國之者參候哉之事
右之通承度候書付可被差越候、以上

右之返答

松平伯耆守

竹嶋者、因幡伯耆附屬二而者無御座候、伯耆國米子町人大屋九右衛門、村川市兵衛と申者渡海漁採仕候儀、松平新太郎領國之節御奉書を以被 仰付候旨承候、其以前渡海仕候儀も有之候様承候得共、其領相知不申候事

竹嶋廻凡八九里程有之由人居無之候事

竹嶋江漁採參候節者、二月三月比米子出船毎年罷越候、於彼地咆みちの魚獵仕候、船大小貳艘參候事

四年以前申年、朝鮮人彼嶋江參居節、船頭共參逢候儀、其節御届申上候、翌酉年も朝鮮人參居申内、船頭共參逢、朝鮮人貳人連候而、米子江罷帰、其段茂御届申上長崎江相送申候、戌年者、逢難風、彼嶋着岸不仕段御届申上候、当年茂渡海仕候處、異国人數多見へ申候間、着岸不仕相帰候節、松嶋にて咆少々取申候、右之段御届申上候事
申年朝鮮人參候節、船拾一艘之内六艘逢難風、殘五艘者、彼嶋ニ留り、人數五十三人居申候、酉年者、船三艘、人四拾貳人參居申候、当年者、船枚餘兩人も多相見へ申候、着岸不仕候付分明ニ無御座候事

竹嶋松嶋其外兩國江附屬之嶋無御座候事

十二月廿五日

当年ハ船枚餘多朝鮮人大勢彼嶋江渡海仕候段、國元より申越候ニ付、其節之御用番土屋相模守殿江書付差出候写
松平伯耆守

伯耆國米子町人大屋九右衛門、村川市兵衛船頭竹嶋江咆取ニ差遣、当三月六日米子出船仕、竹嶋江罷越候處、今年茂彼嶋所々ニ異国舟数多在之、異国人大勢居申候付、咆取候儀難成候故、着船不仕候、船路ニ松嶋と申小嶋相見、立寄、咆少々取候而帰帆仕候由、船頭申旨國元より申越候、右之段、為可申上如此御座候、以上

八月十二日

伯耆守江段々相尋候付、又々書付差出候覚

竹嶋之外松嶋与申嶋、因幡國伯耆國江附屬之嶋ニ候哉之事

右、松嶋兩國江附屬ニ而ハ無御座候、竹嶋江渡海之筋ニ在之嶋ニ而御座候

竹嶋江因幡國伯耆國、道程何程有之候哉之事

因幡國、竹嶋江渡海ハ不仕候、伯耆國、船路百六拾里程有之候

竹嶋、朝鮮國江道程何程在之候哉之事

海上道程難知候、凡四十里余茂可在御座哉与、船頭共申候

十二月廿五日

松平伯耆守

先年松平新太郎方江伯耆國米子町人、竹嶋江渡海御免奉書之写

從伯耆國米子、竹嶋江先年船相渡之由候、然者、如其、今度致渡海度之段、米子町人
村川市兵衛、大屋甚吉申上付而、達 上聞候處、不可在異儀之旨被 仰出候而、被得
主意、渡海之儀可被仰付候、恐々謹言

五月十六日

永井信濃守 在判

井上主計頭 同

土井大炊頭 同

酒井雅乘頭 同

松平新太郎殿

人、御中

右御奉書被成下候、年曆ハ相知不申候由、伯耆守、申来候

竹嶋之儀ニ付柳沢出羽守被申聞候覺

一 宗刑部書付并松平伯耆書付、昨日出羽守江渡候處、被達 御耳候處、今度之書付之旨

ニ候へ者、又、最前之旨共違候、異國江之事候間、年寄とも了簡可仕候

一 来二月刑部、御暇ニ候間、其前各相談可申事

一 出羽守了簡ニ、竹嶋之儀、對馬方江返翰迄ニ而、追而、刑部方、土貢不申遣候而茂、苦

間敷候哉、此段茂、了簡可申由被申候事

亥十二月廿六日

元禄九年^丙正月九日宗刑部大輔家老平田直右衛門、召寄段々口上ニ申合、且又、書付
を以申渡之

口上書

旧冬覺書を以被仰聞旨、各江委細申達候

一 竹嶋之儀、松平伯耆守江相尋候處、竹嶋之因幡伯耆江附屬与申ニ而茂無之、米子町人

同年正月廿三日松平伯耆守留守居、召寄相尋候処、段々書付を以、伯耆守、被申聞候
覚 松平伯耆守

伯耆国米子之町人大屋九右衛門、村川市兵衛船子共、外者、領国之者竹嶋江渡海仕候儀
成不申候、尤、他領之者、渡海之儀、猶以、成不申候、大屋九右衛門、村川市兵衛儀
者、先年、竹嶋渡海之儀、御免被遊、罷越候付、外、参候儀者、決而無御座候、右之船
子共竹嶋江獵二罷越候節、出雲國、隱岐國獵師共雇候而、米子之船子同船二而罷越候、
人数者、年々相違御座候、出雲國、ハ不参儀茂御座候、大形ハ出雲國より二三人隱岐國
ハ八九人程茂雇候而罷越候由御座候

松嶋ハ何連之國江付候嶋二而茂、無御座候由承候

松嶋江獵二参候儀、竹嶋江渡海之節道筋にて御座候故、立寄獵仕候、他領より獵二参
候儀ハ不承候、尤、出雲國、隱岐國之者ハ、米子之者共と同船二而参候

伯耆国米子、出雲国雲津迄、道程拾里程

出雲国雲津、隱岐国焼火山迄、道程貳拾三里程

隱岐国焼火山、同国福浦迄七里程

福浦、松嶋江八拾里程

松嶋、竹嶋江四拾里程

松嶋江伯耆国、海路百貳拾里程

松嶋、朝鮮国江者、八九拾里程茂御座候様承及候、已上

正月廿三日

同年正月廿六日松平出羽守留守居召寄相尋候趣、書付を以、返答申来

口上書

松平出羽守

雲州、隱州之者為自分働、磯竹江致渡海候之儀、不及承候、乍然、隱州近年之様子不
存候

伯州米子町人村川市兵衛、大屋九右衛門雲州雲津浦、直二磯竹江者不致渡海、隱岐國
迄乘船、彼地、磯竹江渡海仕候由承候、

竹嶋之儀雲州二而者、磯竹と申候事

雲州、隱州、磯竹江海路難所二而候処、右兩國之者、米子之者二同船仕参候儀望不
申候得共、市兵衛、九右衛門船子共年々雇申候付罷越候事

右之通候故、自分として磯竹江渡海之義決而無之候、乍然、隱州之儀者近年御代官所
二成候故、委細不存候事

委細之儀御尋被遊候者、國元江申遣吟味可仕候
已上

正月廿六日

松平出羽守

同年正月廿八日刑部大輔、直右衛門を以、被申聞候、私義、今日於、御前首尾好、御
暇被成下、御懇之、上意御馬拜領、難有仕合奉存候、隨而、今日被、仰渡候御書付之
趣、奉得主意候、存寄之通、口上書を以申上候、弥、譯官江口上を以、申渡候様被、仰
付事候ハハ、譯官、渡海とて夏中二ハ罷成申間敷候、子細者、乘渡候船新敷造り其船
二乘渡候古例二候、左候ハハ、秋之未冬二茂及可申候間、申渡候との御案内延引可仕
候、此段為念申上置候

此方、返答

被申越候口上之趣致承知候、譯官江被申渡候口上書、大形出来申候得共、今一篇何茂
江為見候而、其上、相渡可申与存、控置候、重而、自是、御左右可申候、伯耆守江申
渡候儀者、急不申候共之儀与存候

口上覚

宗刑部大輔

今日、以御書付被仰渡候、米子町人竹嶋江罷渡致漁候儀、被差留候与之御事、先頃
如申上候、譯官渡海之刻、弥、口上二而可申渡候哉之事

松平伯耆守江、以御奉書被、仰付由被仰渡候、右如申上候、譯官江申渡候様被思召候
ハハ、私方、譯官江申渡候与之遂案内候、以後伯耆守江被仰付、被下候へかしと奉存候、
若渡海被差留候段、流布仕候而者、彼國二も可傳承哉と奉存候、承候後、申渡候而者、
如何敷奉存候故申上候、以上

正月廿八日

今日宗刑部大輔御暇付而と、城殿刑部大輔江月番戸田山城守相渡候書付之写

口上覚

先年、伯州米子之町人兩人竹嶋江渡海、至于今、雖致獵候由、然者、日本人入交無益事
二候間、向後、米子之町人渡海之儀可差止旨被、仰出之、松平伯耆守方江、以奉書相